



## 災害から1年 被災者の方々に寄り添う

豪雨水害について尋ねる

議員

今でも200名ほどの方々が避難生活を強いられている。特に流失家族はまだまだ一歩も前に進んでいない。どうすれば流失家族を含む避難生活を続ける被災者の皆さんが一歩でも前に進めるのか。スピーディーな支援の具体策を尋ねる。

市長

まだ常総市に戻りたくても戻れない被災された皆さんが一日も早く戻っていただけるように、行政として最大限の支援をし、生活再建と自立ができるような支援もしていきたい。ここ2週続けて流失世帯の皆さんと話をしており、みなし仮設にお住まいの皆さんにもこれから面談をさせていたたく予定である。義援金の第3次配分は、一日も早く支給をしていきたい。

議員

被災世帯の生活支援相談の現状について尋ねる。生活支援相談員が全く来ていないという世帯もあるようだ。

市民生活部長

社会福祉協議会の相談員が回っているが、不在の場合は、連絡をいただきたいという旨のチラシを置いてきている。連絡があれば、こちらから伺う日等を相談させていただきたい。

議員

今後、また訪問はするのか。

市民生活部長

まだお会いできない方については、相談員と連携をとって対応を考えていきたい。特に公営住宅に入っていらっしゃる方については、市長がまず会いたいという意向を伝えて、会えるような手段を考えていく。

議員

地域を一番よく知っている自治区長や民生委員の方にお力を借りてやっていくとよいのではないか。被災された皆さんにとっては本当に苦労苦労の1年だったと思う。実のある生活支援相談になるよう期待する。

■ 設 質 問 JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI ■ 設 質 問

## 災害対策本部の強化を望む!!



防災組織について

図上訓練	実動訓練
教室、会議室、体育館等室内で地図を用いてシナリオなどに沿って口頭・文書により机上で進行する訓練。	室外の訓練会場の現地で実際の人や物を動かして進行する訓練。

議員

置、情報伝達の訓練を行いたい。机上の訓練ではなく、だれがどの係を担当するのか、実際どのように動くのかという訓練が必要ではないか。

安全安心課長

今後は全職員がどのような形で動けるかという訓練はやっていきたいと思う。

議員

災害時には、自助、共助の精神のもと、地域力が大きな力を発揮する。市長は自主防災組織の強化をうたっているが、年度途中でも実行するのか。

市長

実効性のある自主防災組織を立ち上げていきたい。自主防災組織の継続性を担保するために行政がしっかりサポートする体制を考えている。

議員

防災士の資格取得に対する補助として、今年度20名の枠をとったが、全市内で自主防災組織を強化するという点から言うと20名では少ない。補助を増やしていくつもりはあるか。

市民生活部長

補助は来年度以降も続ける予定なので、今後増えていくことを期待している。

安全安心課長

出水期だけではなく、防災の日の前後にも訓練をすべきである。年に2回以上の訓練は必要と考えている。

今年度中に災害対策本部の設

市民生活部長

十分には行っていないかった。

議員

昨年の水害時、防災組織は機能していただろうか。今回改めて初動体制がいかに重要かということを痛感した。これまで日ごろの訓練を行ってきたのか。

議員

十分には行っていないかった。

中村 博美 議員

岡野 一男 議員